

川越・一番街周辺の交通環境改善に関する研究（共同研究の概要）

Research of transportation improvement in Kawagoe city

久保田尚^{1*}、坂本邦宏¹、島田純一²、小嶋文¹、吉田俊介¹、札本 太一¹
Hisashi Kubota¹, Kunihiro Sakamoto¹, Junichi Shimada², Aya Kojima¹,
Syunsuke Yoshida¹, Taichi Fudamoto¹

¹ 埼玉大学大学院理工学研究科

Graduate School of Science and Engineering, Saitama University

² 川越市

Kawagoe City

1. 研究の概要

埼玉大学からもほど近い川越市は、小江戸と呼ばれ、近年多くの客が来訪している。特に市内中心部にある一番街は、「蔵の町」として有名であり、来訪者が集中すると同時に、川越市民が利用するバス路線の経路でもあることなどから、車と歩行者の錯綜がみられるなど得に混雑が激しい地区である（写真1）。川越市との本共同研究は、この一番街周辺地区の交通環境を改善するための取り組みである。



写真1 川越一番街の様子

本共同研究では、川越市一番街における交通問題の解決を目指すにあたり、自動車交通流の定量的分析が不可欠との認識から、交通調査（ナンバープレート調査）を実施した上で、交通シミュレーションによる将来予測を試みた。具体的な検討を実施している川越市の市民参加形式による委員会では、一番

街（道路）の交通規制（歩行者天国や一方通行規制）による歩行環境の改善が提案されているが、一方で一番街周辺の自動車交通混雑の懸念も示されている。市民が持つ「周辺道路の混雑はどの程度になるのか？」といった疑問に答えることは、具体的な交通対策案の検討には必要不可欠である。平成19年度に引き続き、平日の交通調査を実施し、一番街週への自動車交通のOD表（起終点データ）を作成し、現況・将来の交通シミュレーションを実施した。

また、市民生活にも大きな影響を及ぼすと思われる交通規制案については、大規模な住民意識調査（アンケート）を実施し、問題の認識や提案の需要可能性に関するデータを収集した。分析結果は、市民代表者や交通事業者、行政担当者が参加する検討委員会へ報告している。同時に、一番街の道の使い方について定点観測データのビデオ分析を実施し、多くの自動車と狭隘歩行空間における歩行者の危険性の指摘や、観光行動（写真撮影）や歩行形態・速度などのデータから観光客（歩行者）の行動が制約的であるなどの歩行環境の現状を明らかにした。

2. 今後に向けて

本共同研究は、平成21年度に予定されている交通社会実験による効果確認を含め、次年度以降も継続して研究を行う予定である。